

Modernism/Japonism in Photography 1920's-40's
Kiichiro Ishida and Sydney Camera Circle

かつて東洋からきたハリケーンと呼ばれた写真家がいた

石田喜一郎と シドニーカメラサークル

20世紀写真の探索
写真のモダニズム／ジャポニズム

7月23日 火 — 9月8日 日

開館時間：午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)／休館日：毎週月曜日

入館料：大人300(240)円 小中学生100(80)円

※()内は10人以上の団体料金。65才以上の方および障害者の方は無料。毎週土曜日は小中学生無料。

主催：渋谷区立松濤美術館／後援：オーストラリア大使館

渋谷区立松濤美術館
The Shoto Museum of Art

石田喜一郎と シドニーカメラサークル

20世紀写真の探索
写真のモダニズム/ジャポニズム

渋谷区立松濤美術館では、日本の近代写真のすぐれた成果を再評価しようと、「野島康三とその時代」(1991)、「モダン・フォトグラフィ中山岩太」(1997)、「大正期の都市散策者たち 写真芸術の時代」(1998)等の展覧会を開催してきました。

この度、日本近代写真の探索の一環として、知られざる写真作家、石田喜一郎(1886-1957 秋田県生まれ)を紹介いたします。石田は、商社勤務のため1919年にシドニーにわたり、そこで鍵山一郎と出会って写真の手ほどきを受けました。芸術としての写真制作を志すようになった石田は、短期間のうちに高い評価を獲得し、当地で最も先鋭的だったシドニーカメラサークルの一員に、唯一の非白人として迎えられます。当時の写真雑誌にも「突然のハリケーンさながらに東洋からやってきた写真界の隕石」と評される活躍ぶりでした。石田は1924年に帰国してからは東京と関西に住み、1937年から終戦まで天津と北京に暮らしました。この間に石田は常にカメラを携え、自分独自の視界、光、表現を求めながら各地の風景を撮り、工夫をこらした印画を制作して、ロンドン・サロンや日本写真会展など内外の展覧会に出品しています。

石田の写真作品の軌跡は、西洋絵画の美学からジャポニズム、そしてモダニズムへと変遷した戦前の写真観を体現していると同時に、激しい振幅を描いた日本の近代史をも反映しているといえます。西洋と東洋、中心地と辺境、写真メカニズムと芸術表現の間に揺れ動きながら、会社員だった石田が作家として制作してきたものを今振り返ることで、転換期にある現代の私たちは様々な示唆を読み取れるのではないのでしょうか。

本展では、すべてヴィンテージプリント(当時のオリジナルプリント)により、石田の主要作品約130点に、シドニーで彼と交流したオーストラリアの主要な写真家たちの作品約30点を加え、豊富な関連資料とともに展覧いたします。石田のゆかりの地、秋田とシドニーに巡回することになっている同展が、忘れられていた重要な写真作家を発掘する機会となるとともに、古い写真の新しい魅力を知っていただく契機ともなるよう願っています。



《ジャパニーズ・ブラインド》
1915-23 ハロルド・カズノー
ゼラチンシルバープリント © Mrs. Sally Garrett

■講演会

8月10日(土)午後2時より
「現代からみるビクトリアリズム」
講師：細江英公氏(写真家)

■美術相談

8月31日(土)午後2時より
講師：(油彩画)遠藤原三 (日本画)戸田康一

■美術映画会

7月28日(日)午後2時より
「京都の魅力 美のすべて/洛西」
「近代美術—実践と論争/」
セザンヌとルノワールの水浴図」
8月11日(日)午後2時より
「京都の魅力 美のすべて/京都御所・仙洞御所」
「近代絵画とモダニズム/未来派」

■ギャラリートーク

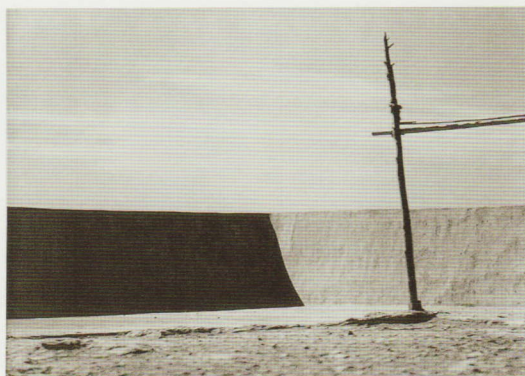
8月1日(木)午後2時より
当館担当芸員



《護謨樹》1923 石田喜一郎 プロムオイルプリント



《支那風景》1929 石田喜一郎 プロムオイルプリント



《無題 其の一》1934頃 石田喜一郎 ゼラチンシルバープリント

【案内図】



次回展予告

渋谷区制施行70周年記念展
9月24日(火)-10月6日(日)

渋谷区立松濤美術館 The Shoto Museum of Art

東京都渋谷区松濤2-14-14 Tel. 03-3465-9421

JR渋谷駅下車徒歩15分 京王井の頭線新泉駅下車徒歩5分